

令和8年度第1回下北小・中学校教頭の働き方改革推進協議会（概要版）

1. 開催場所：むつ合同庁舎旧館2階大会議室

趣旨：令和8年度共通実践事項「教頭の業務内容の明確化」に係る各校の取組状況をアンケート結果から把握し、課題への対応策、市町村教育委員会による支援及び今後の方向性について協議する。

2. 共通実践事項の取組状況と課題・対策

（1）校内巡回における役割分担の見直し

状況：「取り組めていない」を除く23校で何らかの取組を実施。学年担当の教職員や日直、用務員等との役割分担が18校、教職員への意識改革の促しが10校、児童生徒玄関の解錠時刻の見直しが8校となっている。

課題：教職員による確認後に教頭が再確認する「作業の二重化」、早朝登校・電話対応による早出勤務、教職員の多忙さや人員不足、「管理職が行うべき」という固定観念等が挙げられた。

対策：校内巡回の目的や役割分担を学校管理計画等に位置付け、「学校の安全は全員で確保する」という意識を共有する。各担当者が責任を持って確認する体制を整え、教頭による再確認の必要性を見直すとともに、学校や地域の実情に応じて登校・解錠時刻の見直しを進める。

（2）教頭と他の職員との業務分担の見直し

状況：「取り組めていない」を除く29校で何らかの取組を実施。各分掌主任、SSS、事務職員、校長等との間で業務分担・精査が進められている。

課題：外部文書や調査回答等の最終確認では、「現在も従来どおり確認を行っている」が20件と最も多く、チェック機能の効率化が課題となっている。また、人員不足や人事異動後の担当者への引継ぎ・指導等も負担となっている。

対策：引継内容や年間スケジュール等の様式化、共有フォルダの活用等により確実な引継ぎを図る。教頭が担う業務と他の職員に分担できる業務を整理・共有するとともに、学校全体の業務総量を減らす視点から業務の整理・統合・縮減を進める。

3. 共通実践に向けて努力する事項等

生成AIの活用：17校が既に活用を開始。アンケート回答の整理や文書作成等に活用するとともに、個人情報等を入力しないなどの留意事項を守り、最終的には人が内容を確認・判断する。

教育課程上の工夫改善：校内分掌の統合・効率化、下校時刻の見直し、週休日の業者対応の分担、学校行事等の見直しにより、学校全体の業務総量の削減を進める。

市町村教育委員会による支援：学校施設の管理、学校閉庁日等の対応、地域との調整、SSSの配置、学校への文書・調査の精査・削減等を進める。学校の負担を単純に移すのではなく、学校と教育委員会の双方が過重な負担とならない役割分担を検討する。

4. 第2回協議会に向けて

第2回協議会に向けて取組状況や課題を把握するためのアンケートを実施する予定である。市町村教育委員会においても学校への支援方策を継続して検討する。